



Sports Coaching Competency Test の普及及び事業化

SPORTS COACHING COMPETENCY TEST

SCCOT

金高宏文, 中垣内真樹, 前田博子, 吉重美紀, 和田智仁, 中本浩揮, 有馬正人, 吉原大智(鹿屋体育大学)

Sports Coaching Competency Test (SCCOT)とは

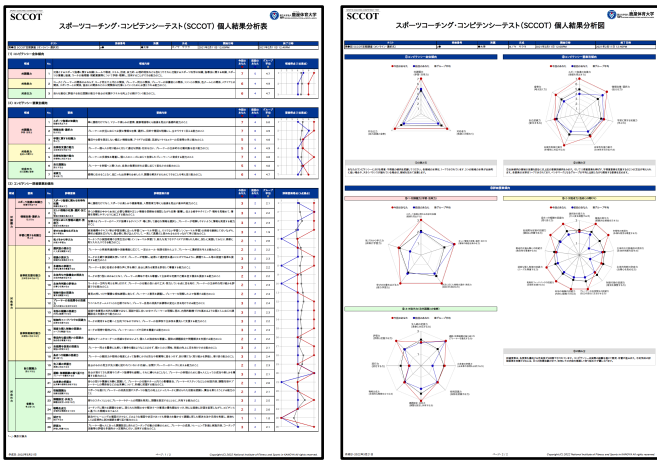
- 本テストは、日本のスポーツ界が目指している「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を可視化するテストです【注】。
- 体育・スポーツに関連する教育機関や指導者養成団体では、多様に複雑なコーチング活動の中で状況に対応しながら、適切な行動・判断を行える資質・能力の育成に力を注いでいます。
- 一方で、コーチングの資質・能力の変化を把握することや、育成プログラムの改善に役立つ情報を得るための測定・評価方法については、十分に整備されていないため、本テストを鹿屋体育大学が2017年度から開発に着手し、2018年度に完成しました。
- なお、本テストは大学教育再生戦略推進経費・大学教育再生加速プログラム(AP事業)の支援を受けて開発したものです。



- 出題される問題は以下のような特徴を持っています。
- 従来のテストの課題を解決するために、本テストでは下の例にあるように、一見してどちらが正解が分からないような、双方に意味のある設問を提示し、個人の判断に基づいて選択させる出題方式を取ることとした。これによって、回答時における反応歪曲等の課題の軽減を図った。

順番	A	B	
1	スポーツを通じて、創意工夫して身体技術を会得する楽しさを学ぶことができる	1 2 3 4	スポーツを通じて、厳しいトレーニングを積み重ね、達成感や粘り強さを学ぶことができる
2	スポーツは、競い合い、勝利することが重要だ	1 2 3 4	スポーツは、勝ち負けよりも、楽しむことが重要だ
3	何かを身につける際には、興味範囲をできるだけ広げ、多くの学びの中から気づきを得る	1 2 3 4	何かを身につける際には、学びの対象を明確にし、関連する書籍や研修を慎重に選択する
4	たとえ試合前でも、全ての練習をプレーヤーの主体性に任せる	1 2 3 4	試合前でも、基本的にはプレーヤーに練習メニューを組み立てさせるが、必要と思われるポイントだけは伝える
5	プレーヤーと共に到達目標を明確にし、その進捗を話し合う	1 2 3 4	プレーヤーの特性を把握し、到達目標を提示し納得させる
6	「今日は個人で技術的な練習をしたい」というプレーヤーには、チーム全体への貢献意識が低すぎると注意する	1 2 3 4	「今日は個人で技術的な練習をしたい」というプレーヤーには、目的さえ明確なら自由に行動させる
7	過去の経験に頼って同じ指導を続けることは、指導法の進化に等しい	1 2 3 4	プレーヤーが勝手に流行のトレーニング情報を収集することはできれば避ける
8	方向性が見えれば、話の途中で論点を整理して自分の意見を言う	1 2 3 4	プレーヤーの意見を十分聞いてから、一緒に考えるようにする

- テスト結果の「個人結果報告書」の例 (2021年度より、レイアウトをリニューアル)



令和3年度の取組み

【事業計画】

- 令和3年度は、開発した「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」を可視化するテスト(Sports Coaching Competency Test : SCCOT)を用いて、他の体育・スポーツ系大学の学生をはじめ、幅広い指導者へテストを普及及び事業化(有料実施)することを目指す。
- コロナ禍においても対応できるように、オンライン受検が可能となるWeb版SCCOTを完成させる(結果報告書の改訂、マイページ化を含む)。
- また、本学学生の評価規準となる基礎データの収集を行うことを目的とする。具体的には、体育・スポーツ系大学、中学校・高校運動部活指導者、スポーツ少年団指導者、競技団体や大学運動部活動(UNIVAS)の指導者を対象として実施する。収集したデータを分析することにより、本学学生の「プレーヤー中心の考えに基づいたコーチングを行うための行動・判断力」のレベルを評価できる規準を設定する。

【事業実績】

- コロナ禍における集合受検や解説会を回避できるように、オンラインでの受検や結果報告ができるように、2020年度から移行しているWeb版SCCOTを完成させた。

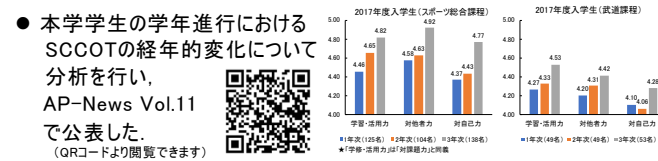


- さらに、マイページ化を図り、繰り返しての受検、比較が行えるようにシステムを更新した。また、結果報告書をより理解しやすいように、評価項目についての説明の追加や評点のレーダーチャート化を図った。



- その結果、本学及び山梨学院大学の学生において、Web上でのテスト実施及び結果報告が可能となった。なお、本学以外の大学の受検は有料化(@500円)した。

- 商標の登録(2021/9/16認証)
- 一方、普及やデータの集積に関しては、コロナ禍ということもあり思うように進まず、本学と山梨学院大学、日本スポーツ協会のコーチデベロップャー研修者の実施に留まった。データの蓄積数は、約5,000件となった。



今後の取組み

- コロナ禍で普及活動は難しいが、他の体育・スポーツ系大学の学生をはじめ、幅広い指導者に対するテストの普及活動(SPORTECへの参加など)を行う。
- 学生の評価規準となる基礎データの収集・分析を行う。
- Web版SCCOTを活用した指導者用の研修プログラムを検討する。

【注】本テストの開発では、株式会社リアセックの協力を得ております。また、本テストの著作権は、国立大学法人鹿屋体育大学が所有しております。無断で再利用することは法律で禁じられています。